

奈良県立五條高等学校 平成 30 年度 第 2 回学校運営協議会

1 日 時 平成 31 年 2 月 27 日 (水) 15 時 00 分～16 時 40 分

2 場 所 奈良県立五條高等学校 大会議室

3 参加者 (委 員) 米田正人、尾崎和弘、上村雅則、竹林徹、
田中義人、飯田明子、柳澤佳孝、下村卓
中井基雄 (本校校長)
(事務局) 廣田清雄 (全日制教頭)、福井邦裕 (全日制教頭)、山内雅雄 (定時制教頭)
稲葉功 (分校教頭)、芝野恵一 (事務長)、田中鈴子 (全日制総務部長)
左川正太郎 (全日制教務部長)、高谷伸也 (定時制教務部長)
前田治孝 (分校教務部長)、谷口達之輔 (全日制進路指導部長)
奥村洋 (全日制生徒指導部長)、辻本和正 (定時制生徒指導部長)
川西哲志 (分校生徒指導部長)、澤一彦 (全日制広報企画部長)

4 会長あいさつ

5 校長あいさつ

6 議 案

(1) 本年度の取組に関する成果と課題、および学校評価について
全日制、定時制、賀名生分校よりそれぞれ説明

(2) 質疑応答

(質問・意見)

「これができた」というだけでなく、課題をあげてもらった。まなびの森コースの出願者が少なかったが、伝統校であっても少子化の波にはあがえない。これをどう乗り越えていくか、安易にクラス減と考えるのではなく、できることを考えなければならない。外部向けにはWeb ページが有効である。アンケート結果では見ている生徒が少ないが、その原因は何か。

(回答)

行事や学習の成果などの更新は頻繁にしているが、生徒たちが求めているものと、学校の公式ホームページの内容には楽しさといった面で隔たりがあるのではないかと。3月末で学校ホームページが変わるが、スマートフォンにも対応するものにしていきたい。スマホでどれだけ見やすいかといったことが、生徒たちにとって重要であると考え。内容も求められるタイムリーなものにしていきたい。

更新は他校と比べても多い方であるが、生徒たちにもっと見るよう呼びかけることも必要である。新聞等でもよく取り上げられたが、部活動に比べ、学校行事などを載せてもらう機会が少なかった。テレビや新聞などへの広報のネタの投げかけをもっと積極的に行いたい。

(質問)

アンケートで「進路実現ができた」が 90%であるが、自分の希望するところへ行けたのか、現状を教えていただきたい。

(回答)

生徒たちは自分の希望する進路は実現できたと思ってきているが、我々からすると、もっと学力をつけ、高いレベルで進路実現をしてもらいたいとの願いを常に持っている。進路実績でいうと、国公立大学への進学という点では、最近では苦戦している。実力のある生徒が、手堅く指定校推薦に流れ、本来の志望校を堅持できない傾向がある。そういった上位層の生徒をいかにチャレンジさせるかという点が課題となっている。

(意見)

定時制のインターンシップで来ていただいたが、真面目な生徒が多い。緊張や物珍しさがあつたと思うがよくやっていた。五條市内には、もっと魅力的な職場がたくさんあり、貴重な体験ができるはずである。講義もさせていただいたが、やんちゃな生徒は、興味を持っているような質問をし、こちらとの距離をはかろうとしているのがわかる。そういった生徒は自分の物差しを持って

おり、社会に出てもやっていけるのだらうと思う。おとなしい生徒は、多くの人の中では自分を出しにくい、いろんなことに興味を持てる年頃であろうと思う。楽しければ、自然と学校に足が向くし、成果も上がってくる。そういう意味で教員はやりがいのある仕事だと思う。素晴らしい教育活動をされているので今後も継続していただきたい。

(意見)

アンケート結果で90%以上の肯定的に捉えられていることのひとつが、挨拶であるが、市内小中学生の模範となっている。五條高校へ行けば気持ちよい挨拶をしてもらえる。もう一つは学校施設についてである。この施設を利用した、サッカー教室やプロのバスケットボールチームを招いての教室といった事業が、地域に開かれた学校として、また高校生力を引き出す取り組みとして、ありがたく思っている。また、まちづくりとしての視点から、賀名生分校の取り組みに期待している。農業を通して、地域の担い手を育成することは、過疎化の中にあって大きな意味を持つことであり、地域からの大きな協力も得ている。入学当初の生徒指導面や全国募集による寮生活の大変さがあるが、今回も出願者20名中12名が県外からであり、全国から五條に来てもらえる生徒がさらに増えるよう、市教委としても連携していきたい。

(意見・質問)

「夢の扉」「コットンプロジェクト」「奈良タイム」等わからない言葉には、注釈をつけていただきたい。分校へ入学した生徒のうち何名が県外生か。

(回答)

昨分校に入学した生徒のうち17名が県外生で、今回の特色選抜では12名が合格した。

「夢の扉」は日々の生活や家庭学習について、生徒自身が記録する冊子。スケジュール帳と学習計画表を兼ね備えたようなもの。学級担任が定期的に点検し、生徒と担任とのコミュニケーションツールにもなっている。

「コットンプロジェクト」は校内で育てた綿を使って、市内の小学生対象のクリスマスリースやわたいとづくりといった体験を行ったり、インドの綿農家の児童・生徒と交流したりしている活動である。有志綿部が中心となって活動しているが、多くの卒業生もイベントには手伝いに来てくれる。私たちの身近なものがどのようなものからできているかを知り、有機栽培や児童労働といったことについても学習する機会となっている。

「奈良タイム」は郷土に関する学習の一環。定時制では1年次の総合的な学習の時間に、五條市内の史跡をめぐるフィールドワークなどを行い、学習している

(意見・質問)

自分たちが高校生であった時代と比べ、丁寧すぎるほどきめ細やかな取り組みをされていると感じる。学校改善のための取り組みが生徒たちにどう影響しているか、またその感想を聞かせていただきたい。保護者アンケートの回収率が50%と悪かったが、そのあたりをどう分析しているか。

(回答)

保護者アンケートを担当している。2学期末三者懇談時に、事前に生徒を通してアンケートを保護者に渡してもらい、懇談時に回収している。玄関に回収箱を置き、忘れた場合も学級担任から予備を渡してもらって協力を呼びかけているが、今年は回収率が悪かった。なぜかという分析はまだできていないが、例年は70%ほどである。

昨年、生徒会と綿部がこの場で発表させていただいた。小学生にサッカーや綿について教えたり、老人ホームで、部活動でしていることを紹介したりする機会は、生徒たちにとってもよい経験となる。自分たちが取り組んできたこと、得意としていることを発表できる機会を増やしていきたいと考えている。学校改善の取り組みについて、施設面では、人工芝グラウンド、体育館LED照明、藤花寮の空調の設置、情報室コンピューターや各教室のテレビモニターの入れ替え等、他校では類を見ないほどの拡充を行っている。学校運営協議会においては、学校の運営方針を決めるのに、保護者や地域の方々、様々な組織の方々からご意見をいただき、連携しながら進めているところであり、今年で3年目となる。目に見える成果というのは、今後に待たれるが、スクールカウンセラー設置を他校に先駆けて取り入れるなど、本校が組織の活性化のために方策を練ってきたことは確かである。それが生徒たちに影響しているのかをはかることは難しいが、今後経過をしっかりと見ていきたい。

(意見・質問)

インターネットで様々な情報が簡単に入ってくる時代となり、価値観も変わってきているのではないか。よい大学に行かすことがゴールではない。稼ぐだけでなく、人のために何ができるか、いかに生きるかが人生の課題となってくる。時代の流れは速く、目標としている職業が将来残っ

ているとは限らない。高校生に目標を持たせるのは難しい。どのように将来のことを認識させる指導を行っているかお聞きしたい。

(回答)

高校をでたあとの居場所を決めるという考え方ではなく、10年先、20年先を見据えて、自分がどういう生き方をしたいのかということを考えさせるべく、教員が共通認識を持って指導にあたっている。長期的な視野で考えることに重点を置き、指導している。

(6) その他

平成 31 年度学校運営協議会について (予定)

5月27日(月)	第1回学校運営協議会開催
6月21日(金)	第1回全日制部会開催
7月16日(火)	第1回賀名生分校部会開催
9月18日(水)	第1回定時制部会開催
10月17日(木)	第2回全日制部会開催
12月13日(金)	第2回定時制部会開催
12月17日(火)	第2回賀名生分校部会開催
3月3日(火)	第2回学校運営協議会開催

7 校長あいさつ

様々な角度からご意見をいただき、感謝しております。来年度の学校経営にいかしていきたい。学校方針である「行きたい」「行かせたい」「来てよかった」という学校づくりは、卒業生である自分が以前本校に勤めた時の思いが込められている。昨年4月の着任以来、3年間このスローガンでいくことを職員に伝え、中身については各部署でこれに基づいて考えてもらっている。

このスローガン通りにしっかりできていれば、卒業生が地域で話をし、生徒は来てくれるはずである。学校適正化の波の中、残念ながら定時制課程は募集停止となった。10年後に再び学校適正化の波が来たとき、本校が五條の町からなくなることはないように、そういう思いで考えたスローガンである。特色選抜の結果は、まだまだ「行きたい学校」「行かせたい学校」になっていないことの証と考えている。まなびの森コースについては、プロジェクトチームを立ち上げ、教育課程も若干ではあるが変更し、来年度から変えていく。そのための広報もしていかなければならないと考えている。クラス数を維持するためには、五條市内の中学生を当てにするだけでは厳しい。他の地域の中学生が来やすい環境を作していきたい。

地域との連携については、よくやっている方ではないかと思っている。農業実習やインターンシップで地域の方々にお世話になり、スポーツ教室等で開かれた学校になっている。地域とのつながりを、より魅力ある学校づくりへとつなげたい。このような機会のみならず、ご意見をいただければありがたいです。今後ともよろしく願いいたします。

